

佳作

大好きな人

青森県青森市立戸山中学校

3年 蝦名 玲乃

私には、一番大切にしたい、大好きな人がいます。それは、自分です。このことを周りに言うの変な人だと思われるけれど、自分が幸せなので気になりません。今、大好きな自分は、以前まで大嫌いな自分でした。

中学校に入学してから、より「周りからの評価」を気にするようになり、「理想の私」を演じることがあたりまえになりました。勉強は努力しなくても得意で、盛り上がる友達を静かに見守る、誰からも好かれる私。本当は、成績を維持するために努力もして、友達と一緒に盛り上がって、大切な人から好かれるだけで満足している私を好きになってほしかったけれど、こんな自分を見てくれる人はいないと諦めていました。すごく苦勞して作り上げた「私」を認めてくれると信じていたのに、現実とはまったく違いました。

「なんで努力の一つもしていないくせに成績を維持できるんだ」と陰口を言われ、「一緒にいても楽しくなさそう」と友達に失望され、気がついたら周りに人がいなくなっていました。周りのためにしたことを、周りの人によって壊されていくのは、とてもつらく、誰からも認められない自分の存在理由を失うのには十分な出来事でした。

それから、「自分」について考えることで精いっぱいになり、どんどん周りとの溝が深まっていき、学校に行くのが難しくなっていました。休み始めてからは、普通に生きられない自分が嫌で、自分との溝も深くなっていき、「早く死にたい」と常に思うくらいまで悪化してしまいました。

ある日、児童精神科の先生に相談し、自分と向き合う機会をもらいました。性格診断や心理テストを通して浮かび上がってきたのは、大嫌いな、ありのままの自分でした。顔をゆがめた私に先生がかけてくれた言葉は今でも忘れません。

「自分が一番好きな自分だからこそ、周りも好きになってくれる。」言われた瞬間、今までの私に、何が足りなかったのか分かりました。特別な努力をしなくても、大切な人と楽しい時間を過ごせる、何も飾らない私を、私自身が一番好きになることが何よりも大切だったのです。

自分のことを大好きになってから、周りに認めてくれる人がいなくても、私だけは認めてあげられる、私だけは味方になってあげるという癖がついて、自分のために生きることができるようになりました。

学校に復帰したとき、ありのままの自分で友達と話して、自分語りばかりしても受けとめてくれる人がたくさんいて、友達の良さを見つけることもできるようになりました。

自分を大好きになるだけで、こんなにも良いことがあって、視野が広がることを知って、もっと早く気付いていればと後悔しています。

これから先に、たくさん困難があったとしても、大好きな自分とそんな自分を好きでいてくれる周りの人と助け合って、乗り越えていけると信じています。